

出エジプト記 21:1-23:9 隣人の接し方の定め

先週は十戒を一通り見て、特に最後の六つの戒め——イエスが「自分を愛するように隣人を愛しなさい」とまとめられた部分——を取り上げました。今日読む出エジプト記 21 章 1 節から 23 章 9 節では、その六つの戒めをさらに細かく掘り下げて、人との関わりの中でどのように行動すべきか、具体的な場面でどのように相手を扱うべきかについての詳しい教えについて見ていきます。

そして 21 章が始まるとすぐに、ある特定の人々——奴隷——をどう扱うかについて語られます。旧約聖書も新約聖書も、私たちとは違う時代、つまり今の私たちから見れば間違っていて不道德だと思えるような社会制度を前提に書かれています。まずは 21 章 1～6 節を読み、聖書の教えに照らして考えてみましょう。これらはあなたが彼らの前に置くべき定めである。2 あなたがヘブル人の男奴隷を買う場合、その人は六年間仕えなければならない。しかし七年目には自由の身として無償で去ることができる。3 彼が独身で来たのなら独身で去る。彼に妻があれば、その妻は彼とともに去る。4 彼の主人が彼に妻を与えて、その妻が彼に息子あるいは娘を産んでいたなら、この妻とその子どもたちは主人のものとなり、彼は一人で去らなければならない。5 しかし、もしもその奴隷が『私は、ご主人様と、私の妻と子どもたちとを愛しています。自由の身となって去りたくありません』と明言するようなことがあるなら、6 その主人は彼を神のもとに連れて行く。それから戸または門柱のところに連れて行き、きりで彼の耳を刺し通す。彼はいつまでも主人に仕えることができる。聖書に出てくる奴隷制度は、アメリカ南部やヨーロッパ、あるいは日本の古い時代にあった奴隷制度とはかなり違ったものでした。多くの場合、それは自発的なもので、家族が離ればなれにならないようにする仕組みでもありました。さらに、耳に穴を開ける儀式を通して、奴隷が主人の家族と共に永久に暮らすこともできました。特に大事なのは、六年経ったら解放しなければならないと律法が定めていた点で、これはモーセの律法全体に流れる安息日のリズムを反映しています。とはいえ、この箇所が続く、女奴隷についての規定では、私たちの現代的な感覚をさらに強く揺さぶる部分が出てきます。

7 人が娘を女奴隷として売るような場合、その女奴隷は、男奴隷が去る場合のように去ってはならない。8 彼女を自分のものと定めた主人が、彼女を気に入らなくなった場合は、その主人は彼女が贖い出されるようにしなければならない。主人が彼女を裏切ったのだから、異国の民に売る権利はない。9 その主人が彼女を自分の息子のものと定めるなら、彼女を自分の娘のように扱わなければならない。10 その主人が別の女を妻とするなら、先の女への食べ物、衣服、夫婦の務めを減らしてはならない。11 もしこれら三つのことを彼女に行わないなら、彼女は金を払わないで無償で出て行くことができる。この時代、父親が娘を奴隷として売ることがありました。それはしばしば、娘に良い結婚の道を開くためでした。律法は二つの可能性を示しています。娘が主人の妻になるか、あるいは主人の息子と結婚するかです。いずれの場合でも、彼女には一定の保証がありました。結婚の約束や、公平な扱い、あるいは補償を受けて自由になる権利です。神はここで奴隷制度そのものを直接否定してはいません。正直に言えば、そうしてほしかったと思うところです。けれども神は、当時のどの社会にもあったこの慣習に規則を与え、それを私たちが現代で知っているような奴隷制度というよりは、むしろ「しもべ」としての立場に近いものへと整えていかれました。こうした決まりごとがあったからこそ、アメリカやヨーロッパで見られた人種差別に根ざし、何の保証もない奴隷制度とは全く違うものとなっていたのです。だからこそ、今日の私たちは、神のかたちに似せて造られた人間の尊厳を損なう奴隷制度を、当然退けます。しかし同時に、聖書は「しもべ」というイメージを、私たちとキリストとの関係を表すためにも用いています。エペソ人への手紙 6 章 6 節には、6 ご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして心から神のみこころを行い、と述べられています。「しもべ (bondservant)」という言葉は、もともとは「奴隷」を意味します。そして、自分の主人と共に生きることを選んだ奴隷のように、私たちもまたこう告白します。「私は、ご主人様…を愛しています。自由の身となって去りたくありません。」なぜでしょうか。それは、イエスご自身が、私たちを救うために来られたとき、しもべ——文字通り奴隷の姿を取ってくださったか

らです。ピリピ人への手紙 2 章 7 節には、7 **ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、**と書かれているとおりです。イエスは、まさに奴隷のようになることを選び、十字架にかけられることまで受け入れてくださいました。それは、私たちが、贖いと救いを与えてくださったその愛ゆえに、キリストの「しもべ」とされ、喜んで仕える者となるためでした。

そして、神とのこの関係は、私たちの人との関わり方そのものを変えていきます。たとえば、**人が人を傷つけてしまったときにどう向き合うか**ということに表れていきます。これが出エジプト記 21 章 12～32 節に書かれています。ここでの大きなポイントは、人を傷つけた場合には償いが求められるということ、そしてその償いは、どんな被害が生じたのか、それがどういう意図で起きたのかによって決まるということです。たとえば 12 節にはこうあります。「**人を打って死なせた者は、必ず殺されなければならない。**」つまり、殺す意図があった場合は死刑が科せられるのです。ただし、神は正しいお方なので、意図的でなければ扱いは別になります。13 節を見ていきましょう。13 **ただし、彼に殺意がなく神が御手によって事を起こされた場合、わたしはあなたに、彼が逃れることができる場所を指定する。**14 **しかし、人が隣人に対して不遜にふるまい、策略をめぐらして殺した場合には、この者を、わたしの祭壇のところからであっても、連れ出して殺さなければならない。**「逃れることができる場所」が設けられ、人を殺してしまった者は、裁きによって有罪か無罪かが決まるまでそこにとどまることができました。殺人であれば死刑となりますが、事故であった場合、すなわち「神が御手によって事を起こされた場合」、その人はその場所にとどまっていれば報復を受けることはありませんでした。また、父母を打つことや、父母を呪うこと、人をさらって奴隷として売ることは死刑に値するとされています。つまり「父母を敬え」という第五の戒めは、神にとって非常に重要であったことがわかります。奴隷の扱いについてもさらに制限が設けられ、もし奴隷を殺せば神の前で責任を問われることになります。これもまた、近代の奴隷制度や、当時のイスラエル周辺の国々のそれとは大きく違っていました。さらに、もし人と人が争っても、誰も死なず、大けがを負っただけの場合には、殺人罪にはなりませんが、「**ただ彼が休んだ分を弁償し、彼が完全に治るようにしてやらなければならない**」(19 節)と書かれています。また、もし男が誤って妊婦を打ってしまった場合、たとえ被害がなかったとしても夫は罰金を科すことができました。しかし母体や胎児に害があったなら、23 節にはこう記されています。23 **しかし、重大な傷害があれば、いのちにはいのちを、**24 **目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を、**25 **火傷には火傷を、傷には傷を、打ち傷には打ち傷をもって償わなければならない。**そして奴隷についても、もし誰かがその目を傷つけて失明させたり、歯を折ったりしたなら、その奴隷は自由になることが 26～27 節に書かれています。さらに 28～32 節では、自分の所有する家畜が人を殺したり傷つけたりした場合についても触れられています。そして、もしその家畜が人を殺したことのある危険なものだと分かっているながら生かしていた場合には、最も重い刑である死刑がその持ち主に科せられます。しかし、過去にそうした前例がなく、たまたま起きたことであれば、金銭的な償いは必要ですが、持ち主が命をもって償うことはありません。

これまでみた箇所から、人を傷つけてしまった場合にどのように対応すべきかが明らかになりましたが、それでは命や健康ではなく、人の持ち物、財産を壊したり奪ったりしてしまった場合にはどのように対応することが求められているのでしょうか。これが出エジプト記 21 章 33 節から 22 章 14 節に書かれています。そこでは、やはり償いが求められることが示されていますが、財産に関しては命をもって償うことはありません。けれども、だからといって軽く見てよいわけではなく、もし人が意図的に盗みを働いた場合には、非常に高いレベルの償いが求められるのです。22 章 1 節にはこう書かれています。…**牛一頭を牛五頭で、羊一匹を羊四匹で償わなければならない。**これは、盗んだ家畜がすでに死んでしまっていた場合の話です。また、生きている家畜が見つかった場合には、4 節に「**それを二倍にして償わなければならない**」とあります。また、自分の家畜が他人の畑の作物を食べてしまった場合や、自分が起こした火が隣人の畑を焼いてしまった場合についても、償いの方法が示されています。では、犯人がはっきりしない場合はどう

でしょうか。9 節にはこう書かれています。…その双方の言い分を神の前に持ち出さなければならない。そして、神が有罪と宣告した者は、それを二倍にして相手に償わなければならない。これらの規定がさらに進んでいくと、祭司たちが神の御心を判断する方法が与えられているのが分かります。家畜の死について、自分には責任がないと神の前で誓うこともあります。持ち主に貸し賃が払われていない限り、やはり償いが求められました。盗みに関しても、出エジプト記 22 章 2～3 節に戻って見ると、家の主人としての対応は罪に見合ったものでなければならないことが示されています。2～3 節にはこうあります。2 もし盗人が抜け穴を掘って押し入るところを見つけられ、打たれて死んだなら、打った者に血の責任はない。3 もし日が昇っていれば、血の責任は打った者にある。夜、泥棒が入ってきて家族を守るためにその侵入者を殺しても、有罪とはされません。しかし、昼間のように目撃者が出やすく、犯行の意図も見極めやすい状況では、たとえ相手が罪を犯していたとしても、その死を招いた責任を問われることがあります。つまり、自分の手で勝手に法を執行してよいわけではなく、財産に関わる犯罪であっても、人に対して勝手に死刑を与えることは許されない、ということなのです。

最後の部分では、人と人との間で起きる出来事への対応から、神に従う社会がどのように正義を実践すべきか、という方向に焦点が移ります。ここでは、イスラエルが社会としてさまざまな罪にどう向き合うべきか、また共同体の周辺にいる人々やイスラエルの外にいる人々をどう扱うべきかについて語られています。神の秩序においては、不道德、つまり結婚の外での性的関係には必ず報いがあります。出エジプト記 22 章 16 節にはこう書かれています。16 人が、まだ婚約していない処女を誘惑し、彼女と寝た場合、その人は必ず、彼女の花嫁料を払って彼女を自分の妻としなければならない。17 もしその父が彼女をその人に与えることを固く拒むなら、その人は処女の花嫁料に相当する銀を支払わなければならない。もし二人が一緒に寝たなら、その女性を妻とするか、結婚の代価を支払わなければならないと聖書は教えています。神の秩序においては、性的純潔と結婚がとても大切にされています。また、神のご性質に真っ向から反する罪については死刑が定められていました。22 章 18～20 節では、魔術、倒錯した性的行為、そして偶像崇拝がその例として挙げられています。18 呪術を行う女は生かしておいてはならない。19 動物と寝る者はみな、必ず殺されなければならない。20 ただ主ひとりのほかに、神々にいけにえを献げる者は、聖絶されなければならない。そしてこの後の箇所では、神様は 4 つの特定のグループについて語られています。まず最初は、私が「外国人や社会のはみ出し者」と呼ぶ人々です。21～22 節にはこう書かれています。21 寄留者を苦しめてはならない。虐げてはならない。あなたがたもエジプトの地で寄留の民だったからである。22 やもめ、みなしごはみな、苦しめてはならない。ちょうど今の日本に住んでいる私たちの中にもそういう立場の人がいますが、寄留者とは、長期的にそこに住む外国人のことです。聖書では、外国人ややもめ、そして孤児は決して虐げてはならないと書かれています。神がイスラエルに望まれたのは、真の神を礼拝しようとする人を誰でも迎え入れることでした。ですから、外国人に対して優越感を持ったり、彼らを利用したりする態度は、神の民に対する神のご計画に反することなのです。外国人ややもめ、孤児を虐げることへの罰は非常に厳しいものでした。23～24 節にはこう書かれています。23 もしも、あなたがたの人たちを苦しめ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶことがあれば、わたしは必ず彼らの叫びを聞き入れる。24 そして、わたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣によってあなたがたを殺す。あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもはみなしごとなる。二つ目のグループは貧しい人々です。人々は、彼らに高い利息でお金を貸して利益をむさぼることを禁じられていましたし、その借金の担保として上着や外套を取ることも許されていませんでした。また、裁判の場で貧しい人を不当に扱うことも禁じられていました。さらに、わいろを受け取ったり渡したりすること、そして貧しい人を不当に死刑にすることも禁止されていました。歴史を振り返ると、こうしたことはさまざまな時代、さまざまな国で現代に至るまで繰り返されてきたことが分かります。出エジプト記 23 章 6 節はこれを次のようにまとめています。6 訴訟において、あなたの貧しい者たちへのさばきを曲げてはならない。実際、23 章はすべての裁判手続きにおいて正直であること、そして法のもとで公平に扱うことを求めることから始まります。貧しい人が不当に扱われてはなりません、だからといって「貧しいから」という理由だけで有利な判

決を与えてもいけないのです。23 章 2～3 節に次のように書かれています。2 多数に従って悪の側に立ってはならない。訴訟において、多数に従って道からそれ、ねじ曲げた証言をしてはならない。3 また、訴訟において、弱い者を特に重んじてはいけない。三つ目のグループとして語られているのは、人間の支配者たちです。28 節にはこう書かれています。28 神をののしってはならない。また、あなたの民の族長をのろってはならない。私たちが人間の支配者にどう応答するかは、実は神にどう応答しているかを映し出します。29 節では神をどのように敬うべきか、そしてその延長として支配者をどう扱うべきかが示されています。29 あなたの豊かな産物と、あふれる酒とのささげ物を遅らせてはならない。あなたの息子のうち長子は、わたしに献げなければならない。神は、私たちが得たものの初物をささげるように求めています。自分のためにお金をため込み、神にささげないことは、神から盗むことになるのです。そしてイエスは、神にささげるものと同じように、政府に納めるべき税も納めなければならないと教えておられます。マルコの福音書 12 章 17 節には、17 …「カエサルのはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」…と書かれています。もちろん、私たちが政府の権威に従うことは必要ですが、最終的には神に従うことの方が上にあります。なぜなら神は 31 節で、31 あなたがたは、わたしにとって聖なる者でなければならない。野で獣にかみ裂かれたものの肉を食べてはならない。それは犬に投げ与えなければならない。と言われているからです。それでも私たちには、この世の権威に従う義務があります。人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです（ローマ人への手紙 13:1）。最後に、もうひとつ語られているグループがあります。それは「敵」です。たとえ敵であっても、機会があるときには親切にすべきです。イエスもこの点をはっきりと示され、敵を愛することによって私たちが神の民であることが証されるのだと教えておられます。マタイの福音書 5 章 44-45 節、44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。45 天におられるあなたがたの父の子どもになるためです。父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。

では、この箇所が今日の私たちに語っていることは何でしょうか。クリスチャンとしての最終的な望みは、旧約聖書の律法をそのまま実践するような国をつくることにあるのでしょうか。いいえ、そうではありません。たとえばアメリカのようにクリスチャンが比較的強い影響力を持つ国であっても、それが私たちの第一の目標であってはならないのです。神の民として、私たちはどこに住んでいても、聖書的な視点で投票し、できる範囲で社会に影響を与えようとします。しかし、私たちの希望は「キリスト教に基づいた国家の建立」にあるではありません。私たちが忘れてはならないのは、私たちの召しは何よりもまず教会の中で神の民となることだという点です。私たちは新しい契約に生きる神の民であり、この世の国々の中で暮らしながらも、召し出された信仰者の集まりとして歩んでいます。政府を尊重しつつも、最終的には別の御国の市民なのです。この契約の核心は、出エジプト記 19 章 6 節に、あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』と、示されている通りなのです。そしてこれまでも見てきたように、これこそが常に神の民に対する神の目的なのです。第一ペテロ 2 章 9 節では、教会についてこう語られています。「あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。」ですから、私たちがどんな政府のもとに生きていようとも、世界に対しては異なる価値観をもつ別の国を示しているのです。教会の中では、政府が決して実現できないかたちで神の律法を生きるのです。移民についてどんな政策があっても、私たちは寄留者を歓迎します。どんな社会保障制度があっても、私たちはやもめや孤児を顧みます。政府がどんな罪を容認していても、私たちは神が罪と呼ぶものを罪と呼びます。ローマ 13 章が思い出させるように、私たちは神を認めない政府のもとであっても、「人はみな、上に立つ権威に従うべき」なのです。けれども人々が教会に来るとき、そこで目にするのは、契約を守られる神によって形づくられ、別の王、すなわち神の御子イエス・キリストのために生きる民であるはずで、私たちがイスラエルを再現することによって神の原則に従うのではなく、互いをどう扱うかにおいて神の原則に従おうとしているのです。祈りましょう。

Exodus 21:1-23:9 Rules about How to Treat Other People

We finished our overview of the 10 commandments last week, focusing on the last 6 commandments which Jesus summarizes as love your neighbor as yourself. Today in our passage that will stretch from Exodus 21:1 to 23:9, we will see more detailed instructions that unfold those six commands regarding our treatment of others and show how we treat others in specific situations.

And right away as chapter 21 begins, we are told **how to respond to treat a specific group of people – slaves**. The Old Testament and the New were dealing with different time periods from us, when different social structures were in place, many of which we would now look on as wrong and immoral. But let's read the passage starting in verses 1-6 of chapter 21 and then discuss it in light of scripture. **21 “Now these are the rules that you shall set before them. ²When you buy a Hebrew slave,^[a] he shall serve six years, and in the seventh he shall go out free, for nothing. ³If he comes in single, he shall go out single; if he comes in married, then his wife shall go out with him. ⁴If his master gives him a wife and she bears him sons or daughters, the wife and her children shall be her master's, and he shall go out alone. ⁵But if the slave plainly says, ‘I love my master, my wife, and my children; I will not go out free,’ ⁶then his master shall bring him to God, and he shall bring him to the door or the doorpost. And his master shall bore his ear through with an awl, and he shall be his slave forever.** The slavery described in the Bible was very different from the slavery of the American South, Europe, or early Japan. It was often voluntary, aimed at keeping families together, and even allowed a slave to remain permanently with a master's family through the ceremony of ear piercing. Most importantly, the law required release after six years, reflecting the Sabbath rhythm we see throughout the Mosaic law. Yet, as the passage continues with instructions about female slaves, we find parts that challenge our modern conscience even more.

⁷“When a man sells his daughter as a slave, she shall not go out as the male slaves do. ⁸If she does not please her master, who has designated her^[b] for himself, then he shall let her be redeemed. He shall have no right to sell her to a foreign people, since he has broken faith with her. ⁹If he designates her for his son, he shall deal with her as with a daughter. ¹⁰If he takes another wife to himself, he shall not diminish her food, her clothing, or her marital rights. ¹¹And if he does not do these three things for her, she shall go out for nothing, without payment of money. In these verses, we see that some fathers would sell their daughters as bondservants, often to secure a good marriage. The law gives two possibilities: she could become the master's wife or marry his son. Either way, she had protections. She could expect marriage, fair treatment, or the right to leave with compensation. Now, God doesn't outright condemn slavery here. I wish He did. Instead, He sets rules around a practice common in every ancient society, shaping it more like servant-hood than the slavery we know from modern history. These safeguards kept it from becoming what we saw in America or Europe, which was based on race and had no protections. Still, while we rightly condemn slavery today as a violation of God's image, Scripture also uses this imagery to describe our relationship to Christ. **Ephesians 6:6 calls us “bondservants of Christ, doing the will of God from the heart.”** That word bondservant is the word for slave. And like the slave who chose to stay with his master forever, we too say, **“I love my Master... I will not go free.”** And why? Because Jesus Himself took the form of a servant—literally a slave—when He came to save us. **Philippians 2:7 says he “emptied himself, by taking the form of a servant, being born in the likeness of men...”** Jesus was willing to become like a slave,

and be hung on a cross so that we could become slaves of Christ who serve him out of love for what he did to redeem us and bring us salvation.

And that relationship with God then changes how we treat others. It even changes **how we respond when humans are injured by other humans**. This is what we see in verses 12-32 of Exodus 21. The main idea is that injuring someone else requires restitution, and that restitution is determined by the severity of the harm and the intent in why it happened. The intent could be to kill a person as verse 12 says, ¹²“Whoever strikes a man so that he dies shall be put to death. That intent brings the death penalty. But God is a just God, and if there is no intentionality the consequences are different. Verse 13 says ¹³But if he did not lie in wait for him, but God let him fall into his hand, then I will appoint for you a place to which he may flee. ¹⁴But if a man willfully attacks another to kill him by cunning, you shall take him from my altar, that he may die. Eventually, cities of refuge would be set up that would protect someone who had killed another person until a judge determined their guilt or innocence. For murder, they would still be sentenced to death, but if the death was accidental, it says here God allowed it to happen, then he would be protected from any negative outcome as long as he stayed in that city. Striking or hitting your parents, cursing your parents, and kidnapping someone to sell into slavery will bring the death penalty. Clearly, the 5th commandment to honor parents is a serious matter to God. There are more restrictions on how you treat slaves, and accountability before God if you kill a slave. Again, very different from modern slavery and other countries around Israel. If men fight but no one is killed only badly injured, there is no murder charge but “he shall pay for the loss of his time...” and his medical care. (verse 19). If a man hits a pregnant woman accidentally even if there was no harm, the husband could impose a fine, but if there was harm to the baby or her, then verse 23 says, “you shall pay life for life, ²⁴eye for eye, tooth for tooth, hand for hand, foot for foot, ²⁵burn for burn, wound for wound, stripe for stripe.” And even for slaves if someone caused injury and blindness in one of their eyes or knocked out a tooth, then the slave would be set free in verses 26-27. Verses 28-32 even address when an animal you own kills someone or injures someone. And again, the harshest death penalty is assigned if that owner has kept an animal alive that has a known history of killing. But if it happens and there is no history then financial restitution has to be made, but the owner does not pay with his life.

So, our responsibility is clear if we have liability in injuring another person, but **how do we respond when we damage or take another person's property, not their life or health?** This is what Exodus 21:33 through 22:14 deals with. We see that restitution is required, but in the case of property, you don't pay with your life. Even if someone intentionally steals, we see that the penalty is high levels of restitution Exodus 22:1 says, he shall repay five oxen for an ox, and four sheep for a sheep...if the animal he stole is dead. For an animal found alive, verse 4 says, pay double. There are instructions about paying restitution if your animal eats another person's crops, and paying restitution if a fire you started burns a neighbor's field. But what about where the guilty party is not clear. Verse 9 says, the case of both parties shall come before God. The one whom God condemns shall pay double to his neighbor. As these rules develop further, we see that the priests will be given a way to determine God's will. There are situations that are dealt with by making an oath to God that it was not your fault an animal died, but they would still require restitution unless a rental fee had been given to the owner. Even with a thief, if we drop back to Exodus 22:2-3, we see that as a homeowner, our

response must fit the crime. Verse 2-3 says, ²^[g] **If a thief is found breaking in and is struck so that he dies, there shall be no bloodguilt for him,** ³ **but if the sun has risen on him, there shall be bloodguilt for him...** If a thief breaks in at night and in protecting my family, I kill the intruder, I am not guilty. But if it is during the day when there are more opportunities for witnesses or even seeing the intent of the person committing the crime, I can be held accountable for his death if I cause it even if he is committing the crime. I do not get to just take the law in my own hands or to administer the death penalty for a crime that may involve property but not human beings.

The final section in this passage dealing with how we treat others turns the attention from things done between people that have to be dealt with to rules about **how a godly society practices justice**. This is more about how Israel was expected to respond as a society to various sins that members of the society would commit, and how society should treat those on the edges and even the outside of Israelite society. In God's economy there is a consequence to immorality, sexual activity outside of marriage. Exodus 22:16 says, ¹⁶ **"If a man seduces a virgin^[i] who is not betrothed and lies with her, he shall give the bride-price^[k] for her and make her his wife.** ¹⁷ **If her father utterly refuses to give her to him, he shall pay money equal to the bride-price for virgins.** If you sleep together, you marry or pay the money you would pay to marry. Sexual purity and marriage are important in God's social order. Some sins are so against God's character that the penalty was death. Witchcraft, perverse sexual activity, and idolatry are in that list in 18,19 and 20. ¹⁸ **"You shall not permit a sorceress to live.** ¹⁹ **"Whoever lies with an animal shall be put to death.** ²⁰ **"Whoever sacrifices to any god, other than the LORD alone, shall be devoted to destruction.** Then God addresses 4 specific groups in the rest of these verses. The *first is who I would call foreigners and outcasts*. Verses 21-22 say, ²¹ **"You shall not wrong a sojourner or oppress him, for you were sojourners in the land of Egypt.** ²² **You shall not mistreat any widow or fatherless child.** A sojourner is a long term foreign resident, like some of us are in Japan... Foreigners, widows and orphans should not be mistreated God's intention for Israel, was to welcome anyone who would join in worshipping the true God. So an attitude of superiority or taking advantage of foreigners was against God's purpose for his people. The punishment for mistreating foreigners, widows, and orphans was severe. Verses 23-24 say, ²³ **If you do mistreat them, and they cry out to me, I will surely hear their cry,** ²⁴ **and my wrath will burn, and I will kill you with the sword, and your wives shall become widows and your children fatherless.** *The second category would be the poor.* The people were forbidden to take advantage of them by lending money at high interest rates, and they could not take a cloak or outer coat for collateral on that loan either. It was also forbidden to take advantage of the poor in court. Along with this, we are told not to take or give bribes and to not wrongly put poor people to death. There is much in history to suggest that these things have happened in many different centuries and countries right up until the modern time. Chapter 23, verse 6 summarizes this, ⁶ **"You shall not pervert the justice due to your poor in his lawsuit.** In fact chapter 23 begins with the requirement for honesty in all court proceedings, and in fair treatment by the legal system. The poor are not to be taken advantage of, but they are also not to be given judgements in their favor just because they are poor. 23:2-3 says, ² **You shall not fall in with the many to do evil, nor shall you bear witness in a lawsuit, siding with the many, so as to pervert justice,** ³ **nor shall you be partial to a poor man in his lawsuit.** *The third group addressed are human rulers.* Verse 28 says, ²⁸ **"You shall not revile God, nor curse a ruler of your people.** Our response to human rulers shows our response to God. As the passage goes

on, verse 29 shows how we should be treating God and by extension rulers. ²⁹ “You shall not delay to offer from the fullness of your harvest and from the outflow of your presses. The firstborn of your sons you shall give to me. To God we give from the first of what we make. To hoard our money for ourselves is to steal from God. And Jesus makes the connection for us that we are required to give to the government the taxes that are required. Mark 12:17 says, *Render to Caesar the things that are Caesar’s, and to God the things that are God’s*. While our submission to the government authorities is less than our ultimate submission to God who says, in verse 31, ³¹ “You shall be consecrated to me” we still have a responsibility to “be subject to the governing authorities. For there is no authority except from God, and those that exist have been instituted by God (Romans 13:1). Finally, we see one additional group addressed – enemies. Exodus 23:4-5 says, ⁴ “If you meet your enemy’s ox or his donkey going astray, you shall bring it back to him. ⁵ If you see the donkey of one who hates you lying down under its burden, you shall refrain from leaving him with it; you shall rescue it with him. Even our enemies deserve to be treated well when we have the opportunity. Jesus makes this point clear that loving our enemies shows that we are the people of God. Matthew 5:44-45 says, ⁴⁴ But I say to you, Love your enemies and pray for those who persecute you, ⁴⁵ so that you may be sons of your Father who is in heaven.

So, what’s the point of this passage for us today? Is our ultimate hope as Christians in trying to bring about a nation whose laws mirror the Old Testament? No. Even in places like the United States where Christians have more influence, that should never be our main goal. As God’s people, wherever we live, we do what we can to vote and influence through a biblical lens, but our hope is not in nationalistic Christianity. We must remember that our calling is first and foremost to be God’s people within the church. We are the New Covenant people of God, and live within nations as a called out assembly of believers who respect the government, but are ultimately citizens of a different kingdom. Remember the point of this covenant is seen in Exodus 19:6, *6 and you shall be to me a kingdom of priests and a holy nation.*’ And as we have seen before, this is always God’s goal for his people. We are told in 1 Peter 2:9 that the church is “a chosen race, a royal priesthood, a holy nation, a people for his own possession, that you may proclaim the excellencies of him who called you out of darkness into his marvelous light. Therefore, no matter what government we live under, we present to the world a different nation with different values. Within the church, we live out God’s law in ways governments never will. Whatever policies may say about immigration, we welcome the foreigner. Whatever social welfare programs exist, we still care for widows and orphans. Whatever sins the government tolerates, we call sin what God calls sin. As Romans 13 reminds us, we remain *subject to the governing authorities* and submit to them, even when they don’t acknowledge God. But when people come into the church, they should see a people shaped by a covenant-keeping God, living for a different King, his Son, Jesus Christ. We are not trying to recreate Israel, but we are trying to obey God’s principles in how we treat one another. Let’s pray.